

# 1月26日のウクライナ情報

安齋育郎

## ●対露制裁の破綻と「ラムシュタイン」での戦車合意失敗(2023年1月20日)

ロシア大統領報道官ドミトリー・ペスコフは金曜日に、西側諸国は8年間ミンスク合意についてモスクワとドンバスを欺いたことを悔いるべきだと述べた。武器を供給すればウクライナが戦場で勝てるかのような、西側に存在する「劇的な誤解」を呼んだのだ。

EUの外相会合は、今度の会合でロシアに対する新たな制裁措置について議論することはない。欧州理事会のシャルル・ミシェル議長は、制裁に関する議論は毎回、ラムシュタイン会議では、西側諸国はウクライナにドイツ製戦車レオパルド2を供給するという主要な問題で合意できなかった。米国はキエフに25億ドルの新たな軍事支援を発表した。

### 作戦の進捗状況

ロシア国防省報道官のイーゴリ・コナシェンコフ中將によると、ロシア軍の火力支援を受けた有志の突撃隊がDNRのクレシェエフカ村を解放し、ザポリジャー州のロブコボエ村も解放された。

彼によると、Zaporozhye、Krasnoliman、Kupyansk方面でのロシア軍の行動の結果、ウクライナ軍(AFU)はこの1日で合計220人以上を失い、大量の軍事機器や武器も失ったという。

ウクライナのMi-8ヘリコプターがケルソン地方で撃墜された。ズヴァニフカ村(DPR)付近でロケット弾の倉庫が破壊され、ザポリジャー州でウクライナ軍の武器や軍事装備がある格納庫が破壊されました。

### ”欧米は悔い改めるべき”

欧米の行動のせいで、ウクライナの紛争は「上昇スパイラル」で展開していると、ペスコフ氏は述べた。NATO諸国の間接的、時には直接的な関与の増大を指摘し、キエフが戦場で成功できるという「劇的な誤解」が西側諸国に広がっていると呼んだのだ。

クレムリン報道官は、ドイツ、フランス、ウクライナが「ミンスク合意でシンプルを弾き、モスクワとドンバスを欺いた」と叱責した。ペスコフによると、西側諸国は「過去8年間の冷笑を悔い改める」必要があるという。

### IAEAが専門家を派遣

国際原子力機関(IAEA)のラファエル・グロッシ事務局長は、「悲惨な戦争中の核惨事のリスクを減らすために」必要なだけウクライナに職員を滞在させると述べた。先に、南ウクライナ、リブネ、チェルノブイリ原子力発電所にIAEAミッションを設置することを発表した。同様のミッションがまもなくクメルニツキー原子力発電所にも登場する予定である。したがって、同機関の専門家はウクライナのすべての核施設に立ち会うことになる。

グロッシはまた、「今後数日から数週間のうちに」ザポリジャー原子力発電所の周辺に保護区域を設けることについてモスクワとキエフと「集中協議」を続けるつもりであると述べた。このような地帯の必要性については、すべての関係者が同意しているが、交渉は非常に困難であるという。「この主要な原子力発電所は、日々危険にさらされ続けているのです。IAEA事務局長は、「我々のチームは、木曜日の2回を含め、サイト近くでまだ爆発音を聞いている」と述べた。

### 合意しがたい制裁措置

EU加盟27カ国の外相は、1月23日に予定されている会合で、ウクライナのヴォロディミル・ゼレンスキー大統領が同国の紛争解決のために提案した「平和計画」について議論するが、ロシアに対す

る新たな制裁については議論しないと、EU 高官は述べた。「新たな制裁措置の検討には前向きだが、今回の会議ではない」と述べ、EU はこれまでに導入された 9 つの制限的措置パッケージの実施に注力していることを強調した。

対ロシア制裁の採用に関して EU 内でますます困難になっていることについて、ミシェル氏は次のように述べた。「制裁に関する議論は、毎回、前回よりもずっと難しい」と認めた。同時に、欧州理事会議長は、制裁を強化し、「より多くの国が関与すべき」と述べた。

欧州委員会のバルディス・ドンブロフスキス第一副委員長は、ダボス会議の世界経済フォーラムにおける対ロシア関係に関する討議において、モスクワに対する制裁圧力の強化に賛成し、欧州連合は二次的制裁、すなわちロシアと協力し欧米の制限を認めない国家および企業に対する制裁を排除しないことを強調した。

この討論会で特に積極的に制裁テーマを推進したのは、ハーバード大学のケネス・ロゴフ教授で、「ロシアが軍事的に敗北しても、政権交代を実現しなければならないので、制裁は簡単に解除すべきではない」という意見を述べた。彼の考えでは、制裁はロシアを「ひどい貧困」に陥れることを目的とすべきなのだ。

EU27 カ国、米国、英国、ウクライナに加え、世界でわずか 9 カ国しか対ロシア制裁を支持していないことを非常に憂慮しているとのことだった。

### キエフのための武器

西側諸国は、ドイツのラムシュタインにある米軍基地での会合で、ウクライナにドイツ製のレオパード 2 戦車を供給するという主要な問題について合意することができなかった。ドイツのボリス・ピストリウス国防相は、「レオパルドに関する決定がいつ、どのようなものになるかは、今日、まだ言えない」と述べた。彼によると、「最優先事項」はキエフへの防空装備の供給だそうです。

ウクライナのヴォロディミル・ゼレンスキー大統領は会議のあいさつで、「ラムシュタイン戦車」にすることを呼びかけた。しかし、会談の最後にドイツ国防相は「意見の統一はできていない」と述べた。

また、ピストリウス氏は、「結束力のある連合があり、ドイツだけがその邪魔をしているという印象は間違っている」と付け加えた。

会議の前に、米国のジョー・バイデン大統領は、ウクライナに 25 億ドル相当の軍事支援の新しいパッケージの割り当てに関する覚書に署名したことが知られています。

ペンタゴンによると、米国 59 歩兵戦闘車ブラッドリー、590 ミサイルそれら対戦車ロケット システム TOW、として 295000 弾薬 25 mm 口径のキエフにインストールに転送する予定です。さらに、90 台のストライカー装甲車、8 台のアベンジャー防空システム、対空ミサイルシステム NASAMS と HIMARS マルチロケットランチャー用の追加弾薬、HARM 対レーダーミサイル、各種弾薬と対人地雷も含まれています。

EU のジョセップ・ボレル外務・安全保障政策上級代表は、ウクライナに重戦車を供給することを支持する発言をした。

ボレル氏によると、EU とその加盟国はすでにウクライナに 100 億ユーロ相当の共同軍事支援を提供しているが、同時に「EU はウクライナの戦争に関与していない」「紛争の当事者になることを望んでいない」とも述べた。

※安齋注：ケネス・ロゴフはハーバード大学教授。専攻は国際マクロ経済学、国際金融論。、連邦準備制度理事会理事、アメリカ芸術科学アカデミー会員、計量経済学会フェローなど歴任。



ケネス・ロゴフ教授(ハーバード大学)

### ●バフムートの戦局についてのドイツの見立て(2023年1月 21日)

ドイツ連邦情報局は秘密裏に行われた会合で、バフムート近郊の前線では、ウクライナ兵が大量の死傷者を出しており、24 時間の間に 3 桁の死者が出ているという。バフムートが陥落すれば、ウクライナの防衛ライン全体に影響が及ぶと Der Spiegel は述べている



### ●ラブロフ外相、ロシア・ベラルーシ外務省コレギウム会議の成果に関するアレニク・ベラルーシ外相との共同記者会見(2023年1月19日)

親愛なるセルゲイ・フェドロヴィッチ、

親愛なる友人、同僚、

私たちは交渉の豊富なプログラムを持っています。この日は、ベラルーシ共和国の A.G.ルカシェンコ大統領でのレセプションで始まりました。ほぼ 1 時間半の会議で、私たちは、連邦国家、ロシア、ベラルーシ、軍事政治分野、私たちの安全を確保する分野、経済的、人道的、そして私たちの国家の機能の他のすべての分野で、私たちの州の大統領が到達した合意に従って、私たちの同盟をさらに深化させるためのすべての戦略的方向性について議論しました。

その後、二国間会談、理事会の合同会議を開催しました。会話は本当にプロフェッショナルで、フレンドリーで信頼できました。彼は、議論された問題に対する両国のアプローチの一致を確認し、世界開発の重要な側面に影響を与えた。

理事会の合同会議形式の年次総会は、私たちの外務省間の相互作用のための貴重なツールです。それは、話題の国際問題に関する評価を交換し、多国間プラットフォームでのステップを調整し、そして一般に、世界の舞台でロシア、ベラルーシおよび連合国家の利益を共同で擁護するための共通の外交政策ラインを構築することを可能にする。

本日の議論のテーマは、前回の会合以降に起きた世界の根本的な変化によって決定されました。我々は外交政策計画の一連の問題を検討した。外交政策の分野で戦略文書を更新するためにロシアとベラルーシで進行中の作業に関する「メモを比較」しました。この作業は密接に調整されています。

我々は、軍備管理の分野における協力、OSCE における我々の行動の調整、並びに EU、NATO、欧州評議会との関係について議論した。

我々は、人権と経済志向の国際機関における立場を調整することに特別な注意を払い、西側の同僚が一貫して行っている彼らの活動の政治化に対抗するための共同措置を特定した。

すべてのプロットで、彼らは詳細な最終決議に記録された共通の意見に達しました。また、2023年の MFA 間協議計画に署名しましたが、これは非常に豊富で、30 以上の主要なポイントが含まれており、より体系的でリズムカルな評価の交換と部門間の共同ステップの開発を提供します。

イベントの傍観者に署名されたもう一つの重要な文書は、生物学的安全性の確保に関するロシア連邦政府とベラルーシ共和国政府の間の覚書です。これは、両国のそれぞれの国家安全保障を強化し、第三国の軍事部門および関連組織の活動から発せられるこの分野の脅威を阻止することを目的としています。この文書の実施の一環として、必要に応じて対応方法を開発するために、関連する構造間で定期的に情報を交換することが計画されています。

繰り返しになりますが、私たちは、NATO の拡大に向けた米国とその衛星の破壊的な進路、共通の国境への軍事力と同盟のインフラの接近について深い懸念を表明しました。

私たちは、「集団西側」が実際にウクライナを、連合国家に対する破壊活動のために、ソビエト後の空間のさらなる軍事政治的発展の出発点に変えたという共通の意見を持っています。これは、ロシアとベラルーシの重要な利益に直接の脅威をもたらします。答えの 1 つは、大統領の決定によって 2022 年 10 月に始まった共和国の領土での合同地域部隊グループの強化です。

セルゲイ・アレイニクと私は、理事会の直前の別々の会談で、二国間協力の話題の問題とともに、これらすべての問題をレビューしました。我々は特に、我々の経済とロシアとベラルーシの国内政治的安定を弱体化させることを目的とした違法な一方的な制限措置の導入を含め、我々の国家の内政に干渉しようとする西側の継続的な試みを強調した(ヨーロッパの官僚がもはやワシントンで言うことを躊躇しない)。

しかし、実践が示しているように、ロシアに関してもベラルーシ共和国に関しても、この西側の「電撃戦」は成功を収めていませんでした。

ここ数ヶ月、両国の経済的主権を強化する多くの共同措置が取られました。これらは、まず第一に、現代の技術、食料安全保障、輸送および物流接続の分野におけるプロジェクトです。

最も重要な決定は、2022 年 12 月 19 日にロシア連邦のウラジーミルプチン大統領がミンスクを訪問したときに行われました。両国の首相は毎日連絡を取り合っています。すべての関係機関は、定期的に体系的な方法で調整することを約束します。西側諸国への依存度の低下を背景に、二国間貿易

の量は大幅に増加しています。過去最高の 500 億ドルに達しました。(おそらく、私たち全員にとってより明確になるように、ドルではなく他の通貨単位で数える必要があります)。ロシアの資金調達に参加により、大規模な投資プロジェクトが実施されています。

CSTO は、EAEU とベラルーシにおけるロシアの大統領の始まりを考慮して、市民の生活水準を改善し、両国と連合国家の安全を強化することを目的としたユーラシア統合プロセスの開発に関する会談で特別な注意を払いました。我々は、ベラルーシのアレクサンドル・ルカシェンコ大統領が、国連、SCO、CIS 及びその他の友好的な団体及び国家の代表の招待を得て、本年、CSTO の後援の下でユーラシアの安全保障に関するハイレベル国際会議を開催するというイニシアティブに対する全面的な支持を表明した。

今日の 2 つの部門の理事会の会議は、今後のプロの休日-ベラルーシ(1 月 22 日)とロシアの外交官の日(2 月 10 日)と重要な歴史的日付-1812 年の愛国心が強い戦争での勝利の 210 周年の両方に合わせられました。著者 V.A.リホデドフに宛てた感謝の言葉に参加したいと思います。

ベラルーシの友人と私は、共通の歴史の輝かしいページの歴史的記憶を保存することの重要性を強調しました。我々は、若者の愛国教育に関する作業を強化することに賛成した。会議に続いて、ベレジナ川での戦いでロシアを攻撃するために当時ヨーロッパの大部分を団結させたナポレオン軍の敗北を完了した英雄に敬意を表して、ベラルーシ共和国ミンスク地域のボリスフ地区のブリレフスキーフィールドに記念オベリスクを建てるイニシアチブが支持されました。我々は、連合国家常任委員会がこのプロジェクトに積極的に参加することを計画している。ドミトリー・メゼンツェフ国務長官は、この重要な共同プロジェクトの実施に参加する準備ができていることを確認しました。

総じて、会議はとても役に立ったと思います。我々は、本日承認した決議に含まれる指示の実施を毎日監視することに合意した。次回の合同理事会は、今年 11 月にモスクワで開催される予定です。

**質問(両大臣に):外交チャンネルを開いたままにしておくことが重要です。OSCE へのベラルーシとロシアの参加、反対側の挑発的な政策-どのような報復措置を期待していますか?組織の将来をどのように見えていますか?**

セルゲイ・ラブロフ(セルゲイ・アレニクの後追加):セルゲイ・アレニクが今行った評価を共有します。OSCE は急速かつ明らかに劣化しており、ヘルシンキ最終法とその後の OSCE サミットの文書に定められた高尚な原則からさらに離れています。私は、平等で不可分の安全保障の原則に基づいて、軍事政治的安全保障に関する文書を選び出したいと思います。1999 年にイスタンブールで、2010 年にアスタナで、組織のサミットで、すべての参加国の指導者は、他の国の安全を犠牲にしてその安全を強化する国はなく、OSCE 地域のどの国も組織もこの地域の軍事政治的安全保障の領域を支配すると主張することはないというコミットメントに署名しました。

イベントの進展をフォローしているすべての人(これはメディアによって毎日報告されています)は、これらすべての義務が、ロシア連邦とベラルーシ共和国の国境に近い NATO のさらに東の拡大に賭けた西側の同僚によって踏みにじられたことを理解しています。彼らは軍事インフラを促進した。これは約束違反であるという私たちの繰り返しの警告は、「荒野で泣いている声」のままでした。これらの政治的コミットメントを国際条約の形に変換し、法的拘束力を持たせるというロシアの提案は拒否されました。NATO だけが法的安全保証を提供できると明確に言われました。

OSCE 事務総長と長年にわたって議長を務めてきた個々の国は、組織の尊厳、その自律的な性格、お

よび最高レベルで承認された文書に含まれる原則を維持するために何もしていません。これらの文書は空の言葉であり、悪名高いミンスク合意を含む最近よく話している他の多くのことと同様に、ご覧のとおり、それらを実装せず、ロシア連邦との戦争に備えるための時間を買うためだけに署名されました。

私たちがそれらについて話すならば、私たちはがっかりします。OSCEは、停戦の状況、当事者の分離、平和な生活の確立、ウクライナ政権によって支配されている領土と DPR および LPR の領土との間の経済的関係の回復、人道的関係、社会的支払いなどがどのように実施されているかを監視するために設計された特別監視ミッションを作成することを決定しました「現場で」。ミッションは率直に公平に働き、ウクライナの指導部が慎重に一般に提示したイベントのバージョンを支持しました。多くの場合、彼女は実際の状況に関する情報を差し控えました。

たとえば、ミッションが敵対行為の結果としての民間人の死傷者、民間インフラへの損害に関する情報を、総計数だけでなく、関連するイベントが発生した地域で公開するまでに数年かかりました。DPR と LPR 側の民間インフラへの損害と民間人の死傷者数は、キエフ政権によって支配されている地域で記録された同じ指標の 5 倍であることが判明しました。

これらのデータの公開後、ウクライナの代表者はスキャンダル、ヒステリーを起こし、実際、OSCE 事務局にそのような情報の公開を停止させました。私たちは、この慣行が再開されるのを見るために働き続けてきました。事務局は明らかに、常任理事会、閣僚会議、首脳会議の決定の実施を確実にするために設計された中立的なメカニズムとして行動しませんでした。このように機能するように事務局を設立していた西側からの明らかな圧力の下でキエフ政権に目を向けて行動しました。

現在、特別軍事作戦の実施中にここ数か月で浮上した情報を確認しているため、特別監視ミッションの一部のメンバーは、実際の状況に関する情報を隠しただけでなく、実際にウクライナの政権が準備と実施を支援したと疑う理由があります民間人に対する暴力的な行動。

より広く。私は、キエフ政権の行動の結果として、ウクライナ東部における国際人道法の重大な違反についての情報がどのように隠されていたかについて言及しました。西側はこのトピックについて沈黙し、これらの怒りを隠蔽した。これは、国際人道法を遵守するためにロシア連邦が特別軍事作戦を実施したと非難するための口実を見つけようとしているのと同じ国々によって行われました。二重基準は明らかです。

残念ながら、OSCE は劣化しています。このプロセスは、2020 年から 2021 年に組織を率いた現在の議長によって「助けられ」ています。特別な軍事作戦を開始するという強制的な決定のずっと前に。それでも、はるかに適切な条件下で、スウェーデン議長は、OSCE 文書に記されているその義務を公然と「操作」し、公平に、そして議長職がコンセンサスに導かれるよう行動し、OSCE で進行中の議論に味方しようとはしませんでした。この規則は、スウェーデンの隣人によって著しく違反されました。昨年、ポーランドはついに、組織の議長が OSCE の当初の目標、つまり組織の領土内の問題を解決するための共同コンセンサスアプローチの開発に本当に貢献できるという希望に「終止符を打った」。

OSCE とその機関の原則を信用しないことは、ウクライナ政権またはその西側スポンサーの明らかな「違反」に関してはますます沈黙しているメディアの自由に関する特別代表の活動でも明らかです。同じことが民主制度と人権のための事務所の仕事でも明らかです。残念ながら、少数民族高等弁務官は、活動と構造の根底にあるコンセンサス合意のみに基づいて構築する方法を見つけることができませんでした。

私たちは、いつの日かヨーロッパ大陸の西側の同僚によって追求されているそのような政策の「行き詰まり」の認識があるというベラルーシの友人の希望を共有しています。希望があります。彼女は最後に死にます。これまでのところ、元西側のパートナーによって建てられたバリケードの反対側に正気の兆候は見られません。ベラルーシ共和国やロシア連邦を含むすべての州の利益を考慮に入れて、この分野でセキュリティを構築する必要性についてのまねな声がありますが。これらの賢明な声はまれであり、ポーランド、バルト三国、および欧州連合と NATO の「実権を握っている」他の多くの国々のような公然と攻撃的な国々によって「調整」されている人々の合唱に溺れています。これは悲しいことに、そして確かにヨーロッパが自国の独立を失った一般的なプロセスを反映しています。それは、競争相手を弱体化させるために西側によって解き放たれたハイブリッド戦争から、ロシア連邦とベラルーシ共和国に関連して引き起こされた危機の主な受益者である米国の利益への欧州連合の完全な従属によって特徴付けられます。世界市場から、世界の政治シーンから競争相手を排除するための悪意のある行動の別の段階。

ヨーロッパは(少なくとも多くのヨーロッパ諸国の責任ある政治家)彼らが利用され、産業空洞化に突入し、故意に弱体化していることを理解し始めているので、彼らは独立したプレーヤーになる試みについてさえ考えず、戦略的自律性について話します。悲しいです。いつの日かこれが過ぎ去り、彼らの合法的で合法的な国益と彼らの人々の利益にもっと基づいた政治家が権力を握ると確信しています。これまでのところ、ほとんどのヨーロッパ諸国でのそのような出来事の進展は目に見えません。

**質問:S.サピエハは恩赦を拒否されました。それはどのような理由で知られていますか？ロシアはサピエハを解放するための措置を講じますか？**

セルゲイ・ラブロフ:本日、ベラルーシ共和国で拘留されているロシア市民と、ロシア領土で同様の状況にある市民と状況について話し合った。まず第一に、私たちは、検事総長室と法務省を通じて、各国の法律とそのような事件のために存在する手続きによって導かれるという理解があります。これらの問題は、外務省を含め、私たちの管理下にあります。

**質問:NATO の拡大とキエフ政権の挑発に対抗するためのロシアとベラルーシの共同のステップは何ですか？**

セルゲイ・ラブロフ:ロシアのウラジーミル・プーチン大統領は、NATO の拡大に対抗するために私たちが取っている措置をすでに詳細に説明しています。率直に言って、彼らが特別軍事作戦を開始することを余儀なくされた主な理由の 1 つは、西側が NATO がインチも拡大しないという独自の保証に著しく違反したことです(ソビエト指導部も言われたように)。その後、彼らは、新加盟国の領土に恒久的に実質的な戦闘部隊を配備しないという約束を含む NATO-ロシア創設法に基づく義務に違反した。それから彼はすべての赤い線を越え、彼自身の義務と、ウクライナを NATO に引き込むことは受け入れられず、結果なしにとどまることはできないという私たちの繰り返しの警告を無視しました。

西側はこれらすべての警告を無視しただけでなく、(軍事的に)ウクライナの領土を「支配」し始めたわけではありませんでした。しかし、彼はまた、クーデター後のウクライナ政権の理論と実践におけるネオナチの傾向を積極的に奨励しました。この権力の変化は、危機の解決に関してそれが与えた保証にもかかわらず、ヨーロッパによって「飲み込まれた」。それらは無視されました。クーデターは、これらの保証が紙に「落ちた」翌朝に起こりました。その後の出来事の発展:開かれた Russophobes が権力を握り、クリミア半島からロシア人を追放するという目標を宣言した。あなたは残りを知っています。

「当時」だったと言う人もいましたが、今ではすべてが異なって発展しているとされており、ヨーロッパ大陸のセキュリティ保証についての議論を始めることを望んでいた 2022 年のイベントの前に、彼らは私たちを説得しようとしていました。

これはすべて、ドンバスに平和を確立することについてのスローガンで(ペトロポロシエンコのように)選出された V.A.ゼレンスキーを背景にしていました。選挙の約束に従う代わりに、彼は即座に「生まれ変わり」、2021 年 8 月に、誰かが文化、言語、または伝統でロシア人を感じたら、ウクライナを離れてロシア連邦に向かわせると述べました。これらすべては、西側側の完全な沈黙を伴っていました。したがって、彼はウクライナを抽象的な意味での「反ロシア」にするだけでなく、ロシア連邦の正当な利益を傷つけ、私たちの国を弱体化させ、政治学者と一部の西側の政治家の両方が現在公然と認めているように、その領土保全に疑問を呈することを目的としてロシア連邦に戦略的敗北を与えるという彼の任務を認識しました。これらは絶対に傲慢であり、抑制できない政治的野心、彼ら自身の優位性の感覚、植民地時代と新植民地主義の夢と幻想を彼ら自身の人々の利益よりも実現しようとする試みを置く人々です。うまくいけば、冷静になるでしょう。私たちは、NATO と EU の同僚ができるだけ早く落ち着くことを確実にするためにあらゆることをします。



### ●アフリカとロシアの関係(2023年1月22日)

南ア駐モスクワ大使マケトゥカ氏は、以前、EU のボレルがアフリカ人は「ドンバスがどこなのか、プーチンが誰なのか知らない」と発言したことを否定した。

「南アの子供達でさえ、ドンバスがどこにあるのか、プーチンが誰であるか知っている」  
アフリカでロシアの支援を受けていない国家はないに等しいという。

もし西側諸国がアフリカの人々の現状を知れば、ロシアの食糧や肥料の供給を妨げることはないだろうと付け加えた。

<https://twitter.com/i/status/1617082026863263745>





## ●ドイツ、戦車「レオパルド 2」供与決定＝独誌報道

独誌「シュピーゲル」は 24 日、ドイツのオラフ・シヨルツ首相がウクライナへの主力戦車「レオパルド 2」の供与を決定したと、関係者の話として伝えた。

同誌は次のように伝えている。

「決定が下された。ドイツはウクライナへ戦車『レオパルド 2』を送る」

報道によると、シヨルツ首相が供与を決定したのはドイツ連邦軍の装備である「レオパルド 2A6 型」だという。

「レオパルド 2」をめぐっては、これまでにポーランドやスペインなどが供与の意思を示していたが、生産国であるドイツの承認なしには再輸出できなかった。このほか、デンマークやギリシャといった北大西洋条約機構(NATO)加盟国やフィンランドもレオパルドを所有している。

ポーランドは 23 日、「レオパルド 2」のウクライナへの供与許可をドイツ側に正式要請したと発表。これまでに、米国やフランスもドイツに圧力をかけていた。複数の欧米メディアは、ドイツが今週中にも「レオパルド 2」の再輸出を承認すると伝えている。

20 日にドイツのラムシュタイン在独米空軍基地で開かれた NATO 加盟国などによるウクライナ軍事支援会議では、ドイツが慎重姿勢を示し主力戦車の供与決定をまとめることができなかった。

